

SHIN CLUB 130

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「駒沢の家」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様には、ご健勝にて新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ほぼ創業時から毎月発信してまいりました弊社の情報誌「Shin club」も、お蔭様で130号を刊行するに至りました。これも偏に皆様方のご支援の賜物と感謝しております。

さて、弊社は昨年10月1日に再び(株)辰としてスタートいたしました。

現在建設業を取り巻く環境は厳しさを増しており、克服しなければならない課題は山積しております。しかし“課題こそ飛躍の糧”であると確信し邁進してまいります。

本日、40名の全社員が荒海に出航した、中期5カ年計画の2015年における具体的な目的地は、以下の通りです。

- 1) “人の道”を尊び、建築の専門店である「建築屋」として、特徴ある建築の分野で城南地域の雄を目指します。
- 2) 売上高31億円以上の都内に本店を置く建設業者の「経営安全度ランキング」で、10位以内を目指します。
- 3) お客様の要望に「応える」から「超える」にこだわり、全社一丸で取り組みます。

どうぞ本年も引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2011年元旦

(株)辰 代表取締役社長

森村和男

駒沢の家

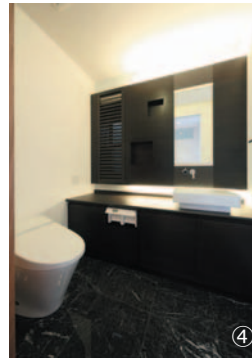


「サステナビリティ（持続可能性）を追求した家」

住環境、もしくは住宅作りに、今求められている姿勢は何だろうか。それは、経済的豊かさを追求するあまり、喪失してしまった自然環境や地域文化の再興、資源エネルギーの低減といった課題を克服し、人々の交流や生活の場を形成実現する方策を提示することではないだろうか。

それは、ユーザーおよび近隣の人々、街並み、地域環境および文化相互の関連性と秩序を維持し、持続可能な住環境を構築する具体的な、経年変化に耐え得る手法や要素を見つけ出すことでもある。

この住宅地周辺もかつては、閑静な街並みであったが、現在は敷地が細分化され、素材感も緑も落ち着きもない、典型的な密集住宅地となっている。そこで、このご家族は、この地域で減り続けている空地进行を最大限残す意味で、新築住宅を集約的形態とし、庭を囲う形で、旧住宅と呼应する配置を選択された。



外観は焼物の質感漂う無彩色の珧石質タイルを貼り、日射軽減の役割も担う深い軒と合わせ、躯体保護を図り、さらにRC 打ち放しの塀、シマトネリコのコーナーツリーといった沿道外構と合わせ、モダンな素材感のある、落ち着いているが、躍動感のある景観を作り出している。

このように理解と志のある施主が増えていけば、住環境およびその景観の永続性は保たれていくはずである。

内部も、間取りの可変性、幅1m以上の廊下・階段、ALL引き戸、気配を感じさせる間仕切り構成、左官等の調湿建材、採風と通風、LED、太陽光発電対応等の手法を用い、高齢化対応や省エネ・健康快適性といった経年変化に耐えられる物づくりの思想を基本としている。

(現代計画研究所 川上 統)



①1階LD②玄関アプローチ③2階への階段④化粧室⑤1階リビングをダイニング側から臨む。大きな開口部から庭の植栽が楽しめる⑥キッチン。右手ドアの奥に食品庫と勝手口が用意されている

世田谷区
構造：RC造 規模：地上2階
設計：現代計画研究所
施工担当：村山
竣工：2010年11月
撮影：アック東京

羽根木の家

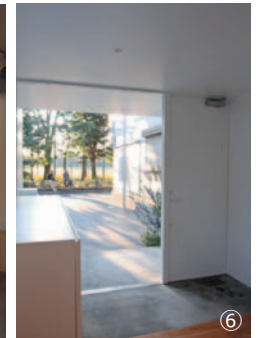
「子育てに最適な環境を活かした、デザイナー夫妻の家」

商業系のインテリアデザインを仕事としているので、設計から工事管理まで全て自分で行うことも可能だったが、プランやコスト管理のみにとどめ、実施設計、施工を信頼できる会社に一任することで、見積比較などの手間を省くことにした。

敷地は、羽根木公園に隣接する、旗状の多少設計上不利な土地だが、工期を短く抑えられるRC造の打ち放しを採択した。「小さな子ども2人を育てるベースをまず作る」という目的で最大限のスペースを確保している。

子どもと過ごす時間を考えると、メインはリビングダイニング。1階には寝室、水廻りを配し、2階にリビングの機能を上げて、公園側にバルコニーを張り出し、吹き抜けの大きな開口部を設けて眺望を活かした。

環境を考えて打ち放しの外壁は杉板でマチエール感を出したかったところだが、時間の関係で今回は断念。打設後の建物を見てケミカルな仕上げは考えものだと感じ、竣工3年くらいは、打ち放しのままの質感を楽しむことにした。(建て主Y様 談)



①外観②キッチン。照明計画は武石正宣氏③リビングダイニング。左側の階段から3階へ④玄関から2階への階段を見上げる⑤2階の吹き抜けとテラス⑥玄関。フィックス窓を通してアプローチはもちろん通りを行きかう人や公園内を通る人も視野に入る

世田谷区
構造：RC造
規模：地上3階
設計：Y様 辰一級建築士事務所
施工担当：常田
竣工：2010年12月
撮影：編集部



山口東洋彦 氏

撮影：アック東京

—今月は、ShinClub128 号でご紹介した「Mr.Music 本社ビル」のデザイン監修を担当された、建築家の山口東洋彦氏に登場いただきます。

山口氏は、日本大学芸術学部美術学科を卒業後、室伏次郎氏のアルテック建築研究所（現スタジオアルテック）に入所。そのとき初めて担当した住宅が前述の Mr.Music 社長の自宅でした。その後、イタリア政府給費生としてミラノ工科大学建築学部留学、ローマの設計事務所での修行を積むこととなります。

—イタリアに惹かれたのはなぜですか？

山口：イタリア人の建築家、レンゾ・ピアノに憧れていて、何とか近づきたいと考えていました。私の卒業時はバブルがはじけて、友人たちの中にはアメリカに留学するものもたくさんいましたが、私は設計事務所で研鑽を積んでいたのもっと自分らしい選択があるのではないかと迷っていました。そんな私に、坂倉準三事務所でタイにたくさん学校を設計した経験のある室伏先生は「山口君、行くならアジアだよ」と勧めてくれました。そして編集者の中原洋さんに紹介されて、マレーシアの設計事務所での働くことになりました。そこでの仕事は「キャメロンハイランド」といって、イギリスの残っていた茶畑の跡をリゾートにするプロジェクトでしたが、現場の実測調査、基本設計までやっていたところで、アジア経済危機で事業がストップ、やむなく帰国しました。

—それは大変でしたね。

山口：でも、東南アジアに行ったことで、日本の価値観がいかにアメリカ力化しているか、ということに気が付いたんです。それがなければ、ヨーロッパには行っていなかった。東京でいくつかの設計事務所での仕事をさせていただき、2001年ミラノ工科大学に留学することになりました。

ミラノ工大では、ある意味不真面目な学生でした。早速ピアノの事務所にアプローチを開始しましたから。しかしちょうど「9.11」の直後でテロ対策もあり、景気は悪化するし、事務所は手ぶらでくる外国人を雇う気なんかまったくない。それで、自宅の並びにあったマリオ・ペリーニの事務所でもアルバイトをしました。ヨーロッパでは、設計の仕事のほとんどはコンペで決まり、しょっちゅう学生に声がかかるんです。

山口氏が滞在中に描いたスケッチ。ローマのカンピドリーオ広場から、サン・ピエトロ寺院のクーポラを望む



Toyohiko Yamaguchi

そこで知り合った学生たちと、ミラノサローネ（家具の国際見本市）のブースを借り、家具システムをデザインして出品したりもしました。

ピアノの事務所に入れず 1 年が経ち、帰国しようとしていたとき、知人から「ローマにすごく忙しい設計事務所がある」という話を聞いたのがマッシミリアーノ・フクサスの事務所。当時、ミラノ見本市会場の実施設計が始まっていて、スタッフを集めていたのです。1.3km におよぶうねうねとしたガラスの空間に〇やロがくつついている、子どもっぽい、でも楽しい建物です。日本ではこんなこと習いません。機能性も考えないで、形を作ることの無意味さはありません。でも自由で、それをやり抜くという行為が大事だということを期せずして体験できた。ローマのようなクラシックな町で、斬新なデザインをやっている意味を感じたんです。「伝統と革新」とは言いますが、本当にクラシカルなものの価値を知っている人々は、新しいものの価値も認める。何かとんでもないものができて、「ここまで来たか」と人々に思わせるようなものが生まれ、それが時間の洗礼を経て、価値あるものとして残るということを知っている町なんだと思います。

ほかに 4 年のローマ滞在中に「EUR 新会議場」や「サンケイビル西梅田プロジェクト国際指名コンペ」、パチカンの中にある、「教皇庁ラテラーノ大学の図書館」の実施設計などを行いました。ローマという古典的な都市で世界中から若いスタッフが集まって、不夜城のように働いているのです。日本ではいかに「あ・うん」の呼吸で仕事をしているか、思い知らされました。言葉できちんと伝えなければすぐに事故になる。自分自身の交渉も大事です。

2006 年に帰国、すぐに Mr.Music 本社ビルの相談を受けました。今、自分が行っている「デザイン監修」という仕事はクライアント側のデザインの窓口とも言えばいいのでしょうか。そういう職能が求められていると感じます。設計者もゼネコン、組織設計、工務店、そして建築家といういろんな立場の人がいますが、クライアント側の意志を汲んだ、翻訳者のような立場の人間が、これからは必要です。

—施工者側の意識も、そういうプロセスの変化に柔軟に対応していく必要がありますね。今日はありがとうございました。

「クライアントの気持ちを受け入れ、アイデアがアップデートされて自身も枯渇しない—最高に粋なことではないかと思えます」

山口 東洋彦（やまぐちとよひこ）

1969年 千葉県生まれ、東京都で育つ

1993年 日本大学芸術学部美術学科を卒業後、アルテック建築研究所に入所

1996年 同研究所退所以降、クアラランプール、東京の設計事務所において勤務。

2001年 イタリア政府給費生に選出され、ミラノ工科大学建築学部在籍。

その間、ミラノサローネに家具を出品

2002年 ローマでマッシミリアーノ・フクサスの事務所に入所、多数の国際的プロジェクトに参加。

2007年 東京にアルキセット総合計画事務所を設立し、建築家、アートディレクターとして様々な分野で活動を展開



F社（仮）ジュエリーショップ計画



山口氏がデザイン監修を行った「Mr.Music 本社ビル」

時代を変えてきた先駆者たちの声を聞き、今を考える

シリーズ「温故知新」VOL.1 第1回/全5回

トヨタ土地建物株式会社 代表取締役
 明治通りプラタナス商店街振興会会長

豊田豊彦

～原宿を育てた不動産会社社長が、先読み（SY）の極意を語る～



「混迷の時代と言われる今を乗り切るには、何が必要なのか」というテーマで、今月より、かつて時代に先駆けて行動した人々にその極意を語っていただくシリーズ「温故知新」をスタートします。第1回は、原宿で長年不動産業を営まれてきたトヨタ土地建物株式会社社長の豊田豊彦氏です。80歳を迎えられ、現在は車イスでお過ごしですが、自身のお名前に向けた「104歳までは悔いの残らない人生を」と、後継者への引継ぎと新しいシステムづくりに余念がありません。日々の考えを綴った『雑学教室』という会報誌を発行し、土地運用に関する知識や法制度への提唱など、過去の経験に即した視点に教えられる読者も多いと聞きます。5回に分けて、随時掲載予定です。

私は、昭和5年（1930年）、世界恐慌の最中に静岡県浜名湖に生まれました。浜名湖岸の戸数100戸という小さな村落で、父の代で分家となり、田畑、その他財産らしきものはない家で小さな機屋を営んでおりましたが、明治生まれの父母は大阪商業、北浜高女を卒業しており、教育熱心な家庭でした。

身体が小さかった私は、小学校時代はいじめられっ子で、学校帰りにいじめっ子グループに取り囲まれることもしばしば。3年生になったとき何とかこの関係から逃れようと知恵を働かせ、グループに取り囲まれたらまず一番弱そうな奴に突進して、そいつが後ろに下がったところで一目散に輪から走って逃げる方法を編み出しました。「まずは全体をよく見よ」ということを子供なりにわかったのではないかと思います。

教育熱心だった両親のお陰で中学校受験をしましたが中学浪人を経験し、浜松第一中学校（旧制中学）に入学したのは14歳のときでした。中学校に入ると、当時はけんかも大人びたゲームです。時間制での殴り合い、そこでも一計を案じました。右利き同士の殴り合いは強い奴が勝ちます。しかし、右利きと左利きで向かい合うとパンチがぶつかり合い、やりにくい。勝負は負けなければ時間が来て引き分けで終わりです。私は決して強くなかったのですが、右利きだけ、左利きの振りをして対戦に臨みました。勝負は引き分け、でも弱いものではない、ということを示せばいいのです。「敵に弱みを見せない」、これはあらゆることに通じます。弱いものに味方をする人なんていないのです。誰だって強いものについていきたい—これが本音です。

勉強はどうだったか。優等生になれればいいが、トップになんてなるもんじゃありません。余裕がないのはダメです。トップグループに入っていさえすればいい。優秀であるところを見せればいいのです。その合格点の80点を取るためには、勉強の仕方がある。勉強で一番頭に残るのは、先生の一言ひとこと。ポイントしか教えませんから。それを復習にすればいいと気が付きました。そして「80

点でいいんだ、20点は捨ててもかまわない」と思うことで、ずいぶん心に余裕ができました。まずは学校帰りに必ず本屋に寄り、明日の授業の内容について参考書をペラペラめくって確認することにしました。それも一冊ではなく何冊も。翌日、授業で先生の言うことを聞いて復習する—それで終わりです。試験でも勉強なんてほとんどしませんでした。先生の言わないことは、試験には出ないんですから。余った時間は趣味の映画の時間に充てました。毎日見に行きましたね。ヨーロッパ映画が特に好きでした。アメリカ映画と違って、人に訴える部分がある。今、『雑学教室』で読者に楽しんで読んでいただくにはどうしたらいいか、と考えるとき役に立っていますね。



昭和16-18年頃の成績表。たくさん「優」が並ぶ秀才だったようだ

学制が旧制から新制に移行する時期を迎え、大学に無試験で入れるという早稲田学院が出来て全学年を募集したので、高校2年生のときに3年を受験して合格しました。家の経済も考え、早く大学に入らなくてはと思ったのです。しかし大学入学時には家業の経営は悪化、家に帰って来いといわれましたが、卒業証書をもらわなければ何もならないと東京で踏ん張りました。が、卒業時もさらに不況の真っ最中、結局コネがなければどこにも就職できない、という有様でいったん田舎に帰り、家業を手伝うことになりました。（つづく）

TOPICS/INFORMATION

「シアンズテラス 駒沢」地鎮祭 12月10日



グループ会社西洋ハウジングの企画物件です。

構造：RC造
 規模：地下1階 地上3階
 用途：共同住宅
 設計：ケイ・吉嶋プロジェクト・パーティ
 完成予定：2011年8月

東京ミッドタウン・デザインハブ第25回企画展 「にんげんをしあわせにするデザイン」

「しあわせ×デザイン」をテーマに、地下鉄福岡七隈線のユニバーサルデザインや建築、プロダクトデザイン、ゲームや映像など、芸術工学の視点から、様々な「しあわせ」へのアプローチをご紹介します企画展です。



開催期間：2011年1月7日（金）～1月30日（日）

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

（東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー 5F）

入場料：無料

企画・運営：九州大学大学院芸術工学研究院

会場デザイン：近藤康夫（九州大学大学院芸術工学研究院教授）

編集後記

・新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいします。
 ・上海に行ってきました。浦東新区の迫力あるビル群や新天地の開発地区は予想以上に洗練されていました。が、郊外の蘇州の水郷に向くと、集合住宅の建設は進んでいるものの、人々の暮らしはまだ質素で、貧富の差の大きさにあらためて驚かされます。昆山錦溪の舟遊びでは、のどかな景色を見ながら船頭の女性の歌にこちらも声を合わせると笑顔が交われ、楽しい時間を過ごせました。

(株)辰通信 Vol.130 発行日 2011年1月11日 編集人：松村典子 発行人：森村和男

東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp